

福島第一原子力発電所 土壤中のPu分析結果

1.測定結果：

(データ集約:1/8)  
(単位：Bq/kg・乾土)

採取場所 ( )は1,2号機スタックからの距離	採取日	Pu-238	Pu-239+Pu-240
グラウンド(西北西約500m) <sup>1</sup>	平成26年9月8日	$(2.0 \pm 0.55) \times 10^{-2}$	$(2.2 \pm 0.56) \times 10^{-2}$
野鳥の森(西約500m) <sup>1</sup>		$(2.7 \pm 0.66) \times 10^{-2}$	$(1.3 \pm 0.15) \times 10^{-1}$
産廃処分場近傍(南南西約500m) <sup>1</sup>		N.D. [ $1.8 \times 10^{-2}$ ]	$(4.0 \pm 0.83) \times 10^{-2}$
国内の土壤(昭和53年～平成20年) <sup>2</sup>		N.D. $\sim 1.5 \times 10^{-1}$	N.D. $\sim 4.5$

[ ]内は検出限界値を示す

- 1：過去のサンプリングが重ならないよう隣接地を採取。  
2：出典「環境放射線データベース」(文部科学省)

2.分析機関：株式会社 化研

3.評価：

平成26年9月8日に検出されたPu-238とPu-239+Pu-240の濃度は、過去の大気圏内核実験において国内で観測されたフォールアウトと同様なレベルである。しかし、これまでの結果から、今回の事故に由来する可能性が考えられる。

以上